

## 第 101 回助産師国家試験分析報告

第 101 回助産師国家試験について、公益社団法人全国助産師教育協議会（以下、本協議会）の立場から「助産師免許付与のために必要な能力」が測定できる出題か否かを分析した。

分析に当たっては、各設問から出題内容のバランスを平成 30 年版助産師国家試験出題基準目標別に分類した。

具体的には以下の 3 点を検討した。

- ①設問と解答肢の検討
- ②知識・技術・態度別からみた出題内容のバランス
- ③助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否か

本分析結果が、第 101 回助産師国家試験において当該年度の助産師免許付与のための採点や合格基準の検討資料として活かされることを切に希望するものである。

分析結果を以下に示す。

### I. 設問と解答肢の検討

設問と解答肢の検討については、午後問題 33 を不適切問題と判断した。詳細については表 1 を参照されたい。

単純な想起問題（タキソノミー I 型）が減り、複数の知識を統合して判断する能力をみる問題（タキソノミー II・III 型）、実際の助産実践に即した問題が増えていた。状況設定問題では、設問が 1 問のみであるにもかかわらず、解答に必要としない情報が多く含まれており、読解力が求められる問題となっていた。図・グラフを用いた問題が複数出題されていたのがこれまでにない傾向といえる。しかし、中には解答を導き出すために必ずしも必要とされない図・グラフも複数含まれていた。

### II. 知識・技術・態度別からみた出題内容のバランス

知識・技術・態度別からみた出題内容のバランスについては「平成 30 年版助産師国家試験出題基準別にみた出題テーマ」（表 2）、および「出題基準目標別の問題数とその割合」（表 3）、「平成 30 年版助産師国家試験出題基準別にみた国家試験出題数」（表 4）を参照されたい。

平成 30 年版助産師国家試験出題基準目標は、以下の 4 群 24 項目に分類される。

#### 【基礎助産学】

1. 助産の基本となる概念と変遷、基本姿勢について基本的な理解を問う。
2. 女性の健康に関する支援のための基本的な理解を問う。
3. リプロダクティブ・ヘルスに関する支援のための基本的な理解を問う。
4. 妊娠による女性の変化や正常な妊娠・分娩・産褥の経過及び正常な新生児の経過や乳幼児の成長・発達における特徴について基本的な理解を問う。

#### 【助産診断・技術学】

5. 女性や家族の健康課題の解決、健康の保持・増進に必要な相談・教育について基本的な理解を問う。
6. 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動の実際について基本的な理解を問う。
7. 助産に必要な助産診断・技術について基本的な理解を問う。
8. 妊娠期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。
9. 正常な妊娠経過からの逸脱及びハイリスク状態にある妊婦への支援について基本的な理解を問う。

10. 分娩期の助産診断及び正常な経過にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
11. 正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
12. 助産に必要な緊急時・搬送時の対応について基本的な理解を問う。
13. 産褥期の助産診断及び支援についての基本的な理解を問う。
14. 正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦への支援について基本的な理解を問う。
15. 妊娠期から産褥期における合併症がある妊産婦への支援について基本的な理解を問う。
16. 新生児期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。
17. 新生児の正常からの逸脱及び異常な症状・状態・疾患がある新生児と家族への支援について基本的な理解を問う。
18. 乳幼児の正常発達・発育経過を判断し、それらを促進する支援について基本的な理解を問う。
19. 乳幼児に起こる主な疾患及び支援について基本的な理解を問う。
20. 低出生体重児・早産児の特徴や疾患及び支援について基本的な理解を問う。

#### 【地域母子保健】

21. 母子保健の動向について基本的な理解を問う。
22. 母子保健活動及び助産業務を行う上で必要な母子保健行政と母子保健制度・施策について基本的な理解を問う。
23. 助産師が行う地域母子保健活動の実際について基本的な理解を問う。

#### 【助産管理】

24. 助産管理の基本、助産業務管理、助産所の管理・運営、周産期医療とその安全について基本的な理解を問う。

今年度の知識と技術・態度の設問割合は、知識 84 問（76.4%）、技術・態度 26 問（23.6%）と知識に関する問題が多く、技術・態度に関する問題の割合は第 100 回（27.3%）に比べて低かった。

基礎助産学に関する問題は、35 問（知識 32 問、技術・態度 3 問）で全体の 31.8%の出題率であった。

助産診断・技術学に関する問題は、56 問（知識 39 問、技術・態度 17 問）で全体の 50.9%の出題率であった。その内訳では、妊娠期の診断とケアに関する問題は、16 問（知識 13 問、技術・態度 3 問）で全体の 14.6%の出題率であり、第 99 回（28.2%）・第 100 回（21.8%）と比べて少なかった。その中では、正常な妊娠経過からの逸脱及びハイリスク状態にある妊婦への支援に関する問題が過半数を占めていた。分娩期の診断とケアに関する問題は、14 問（知識 8 問、技術・態度 6 問）で全体の 12.7%の出題率であり、第 99 回（19.1%）・第 100 回（24.5%）と比べて少なかった。産褥期の診断とケアに関する問題は、4 問（知識 1 問、技術・態度 3 問）で全体の 3.6%の出題率であり、昨年（第 100 回）の 23.6%と比べて減少していた。新生児期の診断とケアに関する問題は、8 問（知識 6 問、技術・態度 2 問）で全体の 7.3%の出題率であった。乳幼児期の診断とケアに関する問題は、4 問（知識 3 問、技術・態度 1 問）で全体の 3.6%の出題率であった。低出生体重児・早産児の特徴や疾患及び支援に関する問題は、6 問（知識 6 問、技術・態度 0 問）で全体の 5.5%の出題率であった。

地域母子保健に関する問題は、6 問（知識 3 問、技術・態度 3 問）で全体の 5.5%の出題率であり、地域における助産師の役割と活動に関する問題が最も多く出題されていた。

助産管理に関する問題は、13 問（知識 10 問、技術・態度 3 問）で全体の 11.8%の出題率であり、第 99 回（10.9%）・第 100 回（9.1%）と比べてやや増加していた。

### Ⅲ. 助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否か

平成 30 年版助産師国家試験出題基準別にみた国家試験出題数（表 4）より、過去 3 年間では、第 101 回は知識を問う問題 76.4%、（第 100 回 72.7%、第 99 回 67.3%）、技術・態度を問う問題 23.6%（第 100 回 27.3%、第 99 回 32.7%）であった。助産師は知識、技術・態度を含めた実践能力が求められる専門職であるため、今回の出題割合は適切と考える。助産学の基礎となる妊娠・分娩・産褥経過と新生児・乳幼児に関する正常及び正常からの逸脱の予測と判断、異常に関する基本的な知識や支援に関する問題が出題されていた。また、院内助産、病院・助産院を含めた助産業務管理、医療事故防止対策、災害時の支援に関する問題など、現在の母子保健医療の現状に合わせた問題も出題されていた。

#### 総括

1. 出題問題の検討については、1 問を不適切問題と判断した。
  2. 知識を統合して判断する能力をみる問題、実際の助産実践に即した問題が増えていた。状況設定問題では、情報量が多く、読解力が求められる問題が複数みられた。その一方で、解答を導き出すために必ずしも必要とされない図・グラフを用いた問題もあった。
  3. 助産師国家試験出題基準に沿った問題が、知識、技術・態度別にバランスよく出題されていた。
  4. 現在のハイリスク妊婦の増加に伴い、妊娠期・分娩期・産褥期（新生児期を含む）の診断とケアの設問においては、異常の知識を問う設問や今日の周産期課題とニーズに合う内容が増加していた。
- 以上より、助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否かについては、適切であると思われる。

以上